

製品名: リン酸化 PAK4 (Ser474) /PAK5 (Ser602) /PAK6 (Ser560) ウサギモノクローナル抗体
カタログ番号: AMRe87682

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,FC 1:200-1:1000
分子量	Calculated MW:64,81,75 kDa; Observed MW:72,82,90 kDa

抗原情報

遺伝子名	Phospho-PAK4/PAK5/PAK6
別名	Phospho-PAK4/PAK5/PAK6
遺伝子ID	10298, 56924, 57144
SwissProt ID	O96013, Q9NQJ5, Q9P286
免疫原	ヒト PAK4 の Ser474 周囲の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

背景

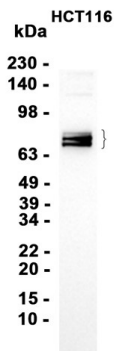
PAK タンパク質は、セリン / スレオニン p21 活性化キナーゼファミリーであり、PAK1、PAK2、PAK3、および PAK4 が含まれま

す。PAKタンパク質は、Rho GTPaseを細胞骨格再構成および核シグナル伝達に結び付ける重要なエフェクターです。これらは、低分子GTP結合タンパク質であるCdc42およびRacの標的として機能し、幅広い生物学的活性に関与していることが示唆されています。PAK4は、Cdc42HのGTP結合型と特異的に相互作用し、MAPキナーゼのJNKファミリーを弱く活性化します。PAK4は糸状仮足形成のメディエーターであり、アクチン細胞骨格の再構成に関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。[RefSeq提供、2008年7月]

研究分野

-

画像データ



ホスホ PAK4 (Ser474) /PAK5 (Ser602) /PAK6 (Ser560) ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した HCT116 細胞抽出物のウエスタンブロット分析。